

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1111 2012年10月号

「秋期緑の街頭募金」活動

10月6日、公益社団法人高知県森と緑の会主催で秋期緑の街頭募金活動が高知市内で行われました。（詳細は2頁）



緑の募金にご協力を（中央、新木局長）



緑の少年団も活躍

献するばかりでなく、森林・林業の重要性に対する理解や関心を深める意義深い活動であり、多くの市民の皆様のご協力をいただけるよう取り組んで参りましょう。」との激励があり、帯

九月二二日、高知県梼原町の鷹取山植物群落保護林において「きのこ観察ツアー」を実施しました。公募により、二二名が参加、講師は、局が登録する「森の達人」の「きのこ達人」荒尾正剛氏に依頼しまし

た。当日は朝から天候も良く、バスの中では、森と木の話や「きのこ」の話を聞き、予備知識をつけました。現地では、「きのこ達人」から注意事項などの説明があり、準備運動などしてか

同じルートを狭い範囲で歩いて、二二名の目で観察すると、さすがに各ペアが「きのこ」の入った袋を持って下山して来るこ

恒例の「秋期緑の街頭募金」が一〇月六日、「緑の募金でふせごう地球温暖化」をスローガンに、公益社団法人高知県森と緑の会主催で高知市の中央公園及び帯

屋町筋で行われました。出発式で新木局長から「豊かな森林資源を守り、将来にわたって活用していくことが重要で、緑の募金活動は、地球環境に貢



屋町筋では、参加者と新木局長からの「緑の募金に協力をお願いします」の大きなかけ声が道行く人々に響き渡りました。

当日は、秋らしい爽やかな日と、中央公園で行われている都市緑化祭と相まって、街は普段以上の人通りで、子供から年配の方

まで、募金の呼びかけに応えていただき、多くの浄財が寄せられました。秋の募金活動は、一〇月三一日まで実施され、皆さまからいただいた募金は水源の森づくりや緑の少年団の育成、国際緑化事業など様々な事業に活用されることとなっています。



通りで、子供から年配の方まで、街は普段以上の人通りで、子供から年配の方

ととなっています。私たちはスタッフは、今回の「きのこ観察ツアー」では、一個体のサンプルも採取出来ないのでは無いかと心配しながら、二人一組のペアで、歩道より少し幅を広くした箇所を観察範囲として、来た道を下山し、観察と標本採取をすることとしました。

観察と標本採取をすることとしました。

げ、「きのこ達人」に同定して貰い、個々の種類についての特徴や、食用の可否及び毒性について説明を受けました。



「きのこ達人」による同定作業

採取量を心配しましたが、結果的に四〇種類の種類に判別することができました。また、その中で食べられる「きのこ」は一割から二割程度でした。参加者からは、「保護林の散策や、「きのこ」観察は、初めてで、さらに講師

の方のガイド付きだったので大変勉強になり、登山もとても楽しかった。」などの声も聞かれました。また、テレビ局の取材班の同行もあり、国有林の紹介も出来て、有意義な一日でした。ご協力頂いた「きのこ達人」荒尾様に感謝いたします。



達人による「きのこの説明」

各地のたより

校庭で樹木学習

〈ふれあいセンター〉

九月一日、高知県黒潮町立上川口小学校の四年生八名を対象に、森林教室を開きました。

まず、屋内で広葉樹と針葉樹の違いや単葉と複葉の特徴、葉のつき方など基礎知識を学び、その後、校庭に出て、自分たちの学校に植えられている樹木について観察しながら学習しました。いつも目にしていない木々であっても知らないことが多いらしく、「アキニレ」の葉は左右不相称であるとか、「ソテツ」は枯れそう



樹木学習の様子



最後に、自分たちが学んだ樹木の樹名板を作成しました。紅葉したり、色鮮やかな花が咲く樹木は人気が高く、希望が叶わなかった子は、残念そうな顔でしたが、ほぼ全員が二枚ずつ作成しました。

板からはみ出るほどの大胆な構図で描く子、外では元氣いっぱいなのに繊細なタッチで描く子、それぞれの個性が溢れた作品となりました。



樹木名板

空飛ぶ種子

〈ふれあいセンター〉

九月二五日、四万十市立中筋小学校の一年生から四年生二一名を対象に、森林教室を行いました。今回初めて低学年に「空飛ぶ種子」を実施するに当たり、理解してもらえるか不安もありましたが、最初に、「樹木はどうやって種をまくでしょうか」との質問に、低学年の男の子が「風を利用する」と、川口自然再生指導官もビックリの答えが返ってきました。その後、スライドと種子の実物を観察しながら、植物は子孫を残すため「風を利用する」、「動物を利用する」、「水を利用する」、「自分の力ではじき飛ばす、転がる」など



高く飛べ(ロケットラワン)

について、学習しました。次に、アルソミトラの種子の模型作り。これは、インドネシアなどの熱帯に生えるウリ科のツル植物で、ラグビーボールほどの実が熟すと下部が割れ、種子がグライダーのように遠くへ飛んでいきます。スレンチシートに型紙を重ねて上からマジック等で型取りして切り出しますが、一年生には難しく、職員の手助けで模型が完成。さらに色紙を

使って、ニワウルシ、マツ、ラワンの種子の模型を作り、最後にスレンチシートでロケットラワンの種子の模型を作りました。色々な種子の観察や種子の模型を製作し飛ばす体験をすることで、低学年にも理解しやすく楽しい学習になりました。

森林土壌に関する

総合学習

〈ふれあいセンター〉

九月二七日、愛媛県松野町立松野西小学校の四年生二四名を対象に、「土壌にすむ生物」と「森林のはたらき」について出前授業を行いました。松野西小学校の四年生は、「総合的な学習の時間」を利用して年六回森林に関



土壌生物の観察中

する学習をしており、当センターが授業を行っています。今回は実験が多かったのですが、出前授業も四回目となると、子どもたちもすっかり打ち解け、元気いっぱい積極的に参加してくれました。まず、「土壌にすむ生物」の講義では、土壌層の違いや土壌生物の種類とその役割について学びました。

一ヶ月ほど前に埋めておいた「野菜」、「枯葉」、「ペットボトル、空き缶など」がどのように変化しているかを確認すると、「野菜」が完全分解されて土に変わっていることに驚き、土壌生物の役割を実感したようでした。一方、「ペットボトル」などは全く変化しておらず、ゴミを捨てないことの大切さも感じる事ができたようでした。

土壌生物の観察では、予想に反して気味悪がる子どもは一人もおらず、時間を忘れて顕微鏡を覗き込んでいました。普段遊んでいる校庭の隅に、こんなにも知らない生物が住んでいることに驚いているようでした。続いて「森林のはたらき」の講義では、森林の持つ七